

第14回 DAAS運営委員会 議事要旨

(1)日 時：2010年6月25日(金) 午後3時～4時30分

(2)場 所：株式会社日本設計 受付 プレゼンテーションルーム

(3)出席者：敬称略 順不同

運営委員長：三塩(日本設計)

委 員：兼松(日本建築家協会)、竺(建築学会)、有馬(積水ハウス)鈴木、早川
(日本建築士会連合会)、早川、安生(日建設計)

事務局：高見(国総研)、中田(宮城大学)、武藤

(4)配布資料：

資料1 表彰作品資料収蔵事業 作業進捗について

資料2 建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム(DAAS)理事・役員選任について

資料3 本年度コンテンツ整備事業費執行状況について

資料4 DAAS事務局移転について

添付資料-1 第4期業務委託契約書

添付資料-2 変更契約書(案)

(5)議事：

■報告事項

[議案1] 表彰作品資料収蔵事業 作業進捗について

- 資料1に基づき、表彰作品資料収蔵事業の進捗についての報告と、来期事業にむけた実施方法及び資料收受方法の改善と委託先の再検討についての説明を行った。

【以下、意見等】

(事務局) 資料收受をデジタルデータ作成作業を行う場所で請け負うことが安全であるということから、委託先を再検討している。本年度は表彰作品 1500 作品のうち 300 作品の収蔵という結果となった。来期も予算を同額程度としており、収蔵枚数も本年度と同程度となる可能性がある。UIA2011 で近現代の表彰建築作品を紹介するウェブとしては、バランスやターゲットを考え収蔵を行う必要がある。そのため実施方法を考えたいというのが報告の主旨である。来期事業費の立替の確保と、来期前半は表彰事業の作業に集中するという理由から、事業計画上で報告した本年度の予算執行を先送りすることを検討している。

(有馬) 規約上、予算の単年度執行ということがなければ問題がないのではないだろうか。

(兼松) UIA 大会での DAAS のテーマ設定は何かあるだろうか。UIA 大会では、ポストモダン後の建築作品の写真展などを行う予定があるのだが、海外から来た方に対して建築作品の所在などの情報がない。

(事務局) DAAS の活動紹介と収蔵作品のディスプレイをする予定である。新たな企画、構成替えをするという予定はない。

(竺) スライドショーのようなもので作品を紹介するので、エポックメイキングな作品にターゲットを絞り、収蔵していくということになるのではないか。

(事務局) 他の活動で DAAS に収蔵したデータを利用したいということであれば貸し出すこともできる。

(竺) 解説の英語表記や字幕が必要となるのではないか。

(事務局) 建築作品の英文表記、設計者、設計事務所、所在地の県名までは英語対応はできて

- いるが、ビデオの英文表記やキャプションの対応はできていない。
- (兼松) 海外の方用の構成をしないと難しいのではないかな。
- (竺) スライドショーとしても見せ方の設計をしなければならない。
- (鈴木) 全国大会などでプレゼンをしているのと同様のイメージではないかと考えている。
- (事務局) 全国大会の展示では、モニターでのビデオ上映、DAASの資料をタペストリーなどで紹介することを行っている。UIAでは公式行事についての詳細を現在決めているが、その他はこれから詳細を決定するということである。DAASでどのようなことを行うか具体的なものは何も決定していない。UIAでの最低限の見せ方も考えていきたいが、まずは資料収蔵数の拡充のために来期事業をすすめていきたい。

[議案2] 建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム(DAAS)理事・役員選任について

○ 資料2に基づき、来期理事の任期満了に伴う理事長退任申し出があることについて事務局より説明を行った。また、後任の理事長について委員からの意見を求めた。

【以下、意見等】

- (事務局) 委員会での意見を伺うにあたり、事務局においてもこれまでDAAS活動に参加頂いた方を後任として検討した。建築家としては、菊竹清訓氏、隈研吾氏、役員の三栖邦博氏、その他、大野秀俊氏、五十嵐太郎氏、鈴木博之氏等々の名前が挙げた。これまで、榎理事長はDAASの活動を様々な場所で紹介し広めて頂いた。後任の方も同様にDAAS活動の広報に協力頂ける方、UIAやその他でも、活動の発信を積極的に行える方が必要と考えている。また、今後DAASの資料に歴史的な幅をもたせ、収蔵したいということ、アーカイブの資料収蔵や整理等は地道な作業の蓄積であることを会員の皆様に強く説明する必要がある。このようなことを含め、資料収蔵の作業を理解頂いている歴史家の先生に表にたって頂いてはどうだろうかというのが事務局内で出た意見である。鈴木氏は設立当初から接点があり、理事長を引き受けて頂けるのではないかと考えている。設立時は、設計界の理解を得る為に、設立時に建築家の大家にご協力して頂く必要があったが、資料収蔵を主な事業としてUIAまで継続して行っていくことを考えると、この機に歴史の方のご協力が必要かと考える。国交省へも協力を依頼し、発信できる方として事務局から鈴木氏を推薦したい。本委員会で委員の方より建築家、研究者、様々なジャンルから推薦を挙げて頂いた上で、本件について進めたいと考えている。意見を伺いたい。
- (竺) 資料を保存し、整理していくということは、歴史的センスが必要であり、歴史家の研究のルーティンの一つでもある。資料は「史料」とも言えるため、歴史に関わっている方に協力して頂くことがよいのではないかなと思う。一つ心配であるのは、アーカイブについて建築家の理解を深めるためには理事長が建築の大家であった方がよいということはあるが、榎理事長が十分に成果を出されているというのであれば、歴史家の方を後任にされるというのもよい案ではないだろうか。
- (事務局) DAASは史料を集めるということと、「デジタルアーカイブ」という先端的なイメージの両側面を持っている。それを伝える為に、ということを見ると理事長の人は選任は非常に難しいが、建築家の方、歴史家の方と任期ごとで順次引き継ぎして頂くことも含めてよいのではないだろうか。会員の確保や獲得も必要ではあるが、会費収入の増額も難しいことを考えると、現会員に資料収蔵という事業活動自体を説明し、保全の重要性を示していく必要もある。
- (有馬) 理事長が建築家、意匠設計の大家ということで活動の支援をして頂いた方もいるかも

しれないが、会員の増加が見込めない状況では、歴史という観点から資料収蔵をくみ上げていくことができ、かつ国交省の支援を求められる人ということであれば鈴木氏が適任ではないだろうか。必要であれば、その次の理事長として意匠設計の方に再度依頼をしてもよいのではないだろうか。

(兼松) 鈴木氏は歴史家でもあるが、評論家的な役割をされており、コンペの審査員もされて、一番建築を観ている方である。DOCOMOMOにも参加しているため状況もよくご存じではないか。

(鈴木) 士会からの推薦ということになると、今すぐにとすることは難しいため、持ち帰って回答をしたいが、鈴木氏は情報広報委員会で特別委員をされている。アーカイブについても理解頂いており、人物としても適任であると考え。

(兼松) 人柄は非常に良い方である。

(事務局) この事業は学生の協力も必要な場合がある。学術系の先生方や、大学に参加頂くことも考えていきたい。この場で推薦して頂くということは難しいかもしれないので、本日の時点で意見を事務局でまとめ、鈴木氏、榎理事長の意見を確認させて頂きたいと思っている。9月の運営委員会で総会に提出する理事名簿案を作成するという予定である。理事をして頂いている方々も任期満了となる為、理事継続依頼をさせて頂く予定である。新たな参加も募っていきたいと考えている。

[議案3] 本年度コンテンツ整備事業費執行状況について

- 資料3に基づき来期事業の費用立替のため本期コンテンツ整備費執行を来期への先送りを検討していることについて事務局より説明を行った。

[議案4] DAAS 事務局移転について

- 資料4に基づき、DAAS 事務局移転の経緯と、新事務所の所在、及び財団法人ベターリビングとの事務局業務委託について残期契約期間に関して変更する予定であることの報告を行った。